

# 古道調査・三峯参拝道

(三峰口駅～大輪～三峰神社表参道～三峰神社～奥の院～大陽寺～三峰口駅) 2023.9.28-29

## 【調査記録】

最初に大陽寺について記載をさせて戴きます。

現在大陽寺については立ち入り禁止となっております。大陽寺内に入ってから寺の住職とみられる方からここは「立ち入り禁止内なので出て行っていただきたい」と言われる。

「地図上から登山道を削除していただきたい」旨を昭文社の方に伝えた。との事でした。

また立ち入り禁止になった理由を大血川溪谷釣りの管理人から聞いたところ「以前、大陽寺の敷地に不審者が入り不純物投機した」この事から大陽寺の敷地は全て立ち入り禁止となった。大陽寺への参道は木々で塞がれて、人が通れる状態ではなかった。

このような理由で、大陽寺入口バス停からの最終バスに乗れず大陽寺から三峰口駅まで3時間ほど徒歩で歩くことになった。現在は三峰口駅にタクシーは常駐しておらず、秩父市内からの迎車となるので、1時間以上は要するとの事。

今後について、日本山岳会埼玉支部として、「地蔵峠から大陽寺までの登山道」は荒廃および大陽寺敷地が立ち入り禁止、また大陽寺入口バス停まで相当な時間を有する事からしても今後は登山道として利用しないよう検討すべきである。

## 一日目(9月28日(木)) 晴れ

三峰口駅から西武バスで大輪まで乗車する。大輪バス停から三峯神社大鳥居が見える。鳥居を潜るとかつて旅館や商店・休憩場所で栄えたであろう家並みがあった。登龍橋で荒川を渡ると三峯神社の表参道登山口である。

大輪から神社までロープウェイや車道が出来るまでは老若男女がこの登山道登って行った光景が伺える。橋の袂には登龍橋・丁目標柱や壺丁目石、奉納植樹奉納碑なるものが夥しい数が林立していた。杉の大木の登山道を進んでいくと清浄の滝が現れた。丁名石を探しなら行くが五十二丁の全ては確認できなかった。

三峯神社に近づくにつれ宿泊施設跡や薬師堂跡とみられる建物が存在していた。

奥宮拝殿手前に五十二丁石を確認すると同時に三峯神社表参道を完徒した。日本武尊銅像を拝顔した。隋神門を潜り三峯神社本殿に参拝する。三峯神社の祭神はイザナギ、イザナミのかみである。これは日本武尊が東征の時、勝利を祈願してこの二神を祭ったことに始まると伝えられている。また日本武尊を導いた山犬(オオカミ)が使いの神といわれている。三峰の名は神社の東に雲取山、白岩山、妙法ヶ岳の三つの峰が連なることから呼ばれている。

宿泊先である興雲閣に投宿した。

## 二日目(9月29日(金)) 晴れ

興雲閣の朝食が午前8時なので、興雲閣9時出発になった。

ここから、三峯神社奥宮(妙法ヶ岳)を目指した。いくつかの鳥居を潜り1時間20分程で奥宮(妙法ヶ岳)に登りつく。奥宮(妙法ヶ岳)から分岐点まで下り、地蔵峠まで登る。

途中、雲取山からの下山者と遭遇する。地蔵峠で昼食を摂り、大陽寺を目指すが流石に入山者は見られず、登山道も不明な個所もあった。霧藻ヶ峰(お清平)道標から大陽寺への登山道は立ち入り禁止の立て看板あった。が敢えて下山した。大陽寺の板扉を開けて入ると冒頭に記したように、住職とみられる者から立ち入り禁止なので出ていく様にいわれた。これにより大陽寺については写真も撮れず、詳細について記載できない。

数分間、観察した結果、本堂には修行用寝具(布団)と見られる物が重なり、庭は荒れており、寺としての機能もしていない様子でした。また庭からの登山道は確認できなかった。しかし、歴史的建造物、大血川流域に残る平将門伝説等歴史的価値からすれば貴重な文化遺産です。今後、早期に立ち入り禁止区域が解除されることを望む。

なお、大血川溪谷釣り場から上りは大陽寺の敷地の為、人も車も立ち入ることが出来ません。

以上